

富士市立高等学校学校運営協議会準備委員会

第2回 議事概要

- 開催年月日 平成23年6月15日(水)
- 開催時間 午後1時30分から午後3時30分
- 開催場所 富士市立高等学校会議室ほか
- 出席者 [学校運営協議会準備委員会委員]
安藤 肇 奥園好文 加納孝則 高田 稔 内藤栄一
畑 隆 増田正之 山崎保寿 渡邊利夫 渡辺泰明

[教育長]
平岡彦三

[教育総務課・市立高校]
池田和明課長 他教育政策担当
齋藤照安校長 小林政樹事務長
他教職員
- 会議の概要
 - 1 開会
 - 2 授業参観・施設見学
 - (1) 授業参観 授業担当：若園耕平教諭、作川なおみ教諭
クラス：15HR(ビジネス探究科)
科目：「総合的な学習の時間」(探究学習)
内容：グループシートを作成するためのダイヤモンドランキングリーダー決め
 - (2) 施設見学 視聴覚ホール、体育館
 - 3 委員長あいさつ
皆さまこんにちは。本日はお忙しい中、第2回の準備委員会に御出席いただきましてありがとうございます。先ほど、探究学習の授業を参観

していただきましたが、実際に見ていただいて、具体的な様子が伝わってきたと思います。この探究学習を定着させ、いかに発展させていくかというときに、今日の見学は、具体的なイメージを踏まえて考えていく上で、とても大事な機会であったと思います。

それでは、早速本日の内容に入っていきたいと思います。

4 議事

(1) 探究学習について

[委員長]

それでは、まず本日皆さんに見ていただいた探究学習につきまして学校から説明をお願いします。

[校長]

皆さん、こんにちは。大変お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。学校は今、研修週間の最中ではありますが、今日は、その中でも探究学習を参観していただきました。探究学習は、3年間で一つの目標を達成することになっています。そして、私共は3年間で探究学習をやりながら進学実績も出さねばなりません。一方で、探究学習と進学は相反する方向性を持っているのも事実です。商業で言いますと総合実践と商業実績といった部分です。

探究学習の目的は、3年間で、これから自分の将来をどう考えていくのか、どう設計していくのか、いろんな角度から学んで自分のキーワードを見つけることです。また、卒業後に、大学或いは会社等でも高校で学んだ探究学習を活かして成長していったら欲しいと思います。

この後、これまで取り組んできた探究学習の企画や本日の授業について担当から説明させていただきます。御感想等をよろしくお願い致します。

[市立高校教職員A]

それでは、探究学習について説明させていただきます。これまでの「総合的な学習の時間」では、その目的として「生きる力」の育成が強く示されてきました。しかし、新学習指導要領では、そのねらいの一つに、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く課題を解決する資質や能力を育成することがあげられています。これは、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくことだと思います。2つ目に学び方やものの考え方を身に付け、問題の解

決や探究活動に主体的、創造的、協力的に取り組む態度を育て、自己のあり方、生き方を考えることが出来るようにすることがあげられています。これは、学んだことを将来の自分のあり方や生き方に繋げて考えるということだと思います。また、そのために必要なこととして、ものごとの本質を探って見極めようとする探究的な学習を行うこと、協働的に取り組む態度を育てること、体験から感じ取ったことを表現したり、事実を正確に理解して伝達したり、情報を分析して論述する言語活動を充実させることがあげられています。

そこで、市立高校の「総合的な学習の時間」における探究学習の目的を「自ら切り拓く力を育む。」としました。これを実現させるために、探究学習をベースにした「総合的な学習の時間」における3年間の授業を5つの単元に分けました。他校では、「総合的な学習の時間」を修学旅行の事前事後学習や朝読書で読み替えているところもありますが、市立高校では、しっかり授業として行います。1年次では、「総合的な学習の時間」で1単位、「情報処理」で1単位、計2単位で行っています。授業は、担任と情報担当の教諭が2人で行います。本校は、情報機器が充実しており、それを指導できる教員が多数いるという強みを活かして、情報機器を積極的に活用した探究学習を行います。

5単元のねらいですが、まず、1年次の前期に、第1単元の〈序〉として「スキル」を学びます。これは、身近なものを題材に、独創的なアイデアを出したりといった、発想法等を学びます。そして、1年次の後半で学ぶ第2単元は、「ディベート」です。これは、チームを組んで、様々な社会問題をテーマに肯定と否定のどちらでも説得できるように論じていきます。そのことによって、多面的、多角的な考え方や協働の精神、さらにコミュニケーション能力が育成できると考えています。2年次の前半では、第3単元の〈活〉ということで、市立高校だからこそできる活動として、富士市の抱える課題に挑戦します。生徒なりの解決策を考え、プレゼンを行います。このことを通して、生徒は地域を理解し、協調性や社会性を高めることができると考えています。2年次の後半では、第4単元の〈究〉ということで、これまで学んだ知識と技術を応用して、学術的な問題に取り組みます。自分の興味あるテーマを選択し、調査したり研究したりした後、研究結果を論文にまとめて発表します。これは、どんな分野が自分に向いているのか、自分自身を知ることによって繋がっていきます。3年次の前半は、第5単元の〈夢〉ということで、自分の人生プランを考えます。将来の職業について、自分がどういう方向にいきたいのか、具体的な

内容ですとか、その職業に就くためにはどんな学歴や資格がいるのか、そして、それに関連する研究分野にはどんなものがあるのかといったことを研究していきます。そのことを通じて、生徒は、自分の夢に向かって、どういう進路のルートを取るのかを考えます。そして、このことについて、論文にまとめて発表します。こうした人生の目標を明確にするという作業を探究学習の最後に行います。どの単元でも、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現をスパイラルに繰り返します。

5単元を学ぶことで、普通の教科では学べない力、コミュニケーション能力や協調性といった将来、役に立つ力を身に付けることができると考えています。ドクターになっても患者と会話が出来ない人がいるという話を聞いたことがあります。そうならないように、本校で学んだ生徒たちは、社会人基礎力をしっかり身につけて欲しいと思います。

2枚目のプリントに探究学習における発展のイメージが図式化されています。5つの単元それぞれで、課題の設定から始まるスパイラルを繰り返すことで、より高度なことに挑戦していきます。こうした中で、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、論理的思考力が身に付きます。ここで、強調したいのは、これを一部の生徒ができるようになれば良いと考えているのではなく、全ての生徒が体験し、身に付けることを目指している点です。

1年生の探究学習については、担当から説明させていただきます。

[市立高校教職員B]

本日見ていただいた探究学習の授業につきまして、この4月から始まってこれまでにどんな過程を経てきたかを説明いたします。

まず、担任がクラスのテーマを設定します。これは、リンゴ、空気、水といった漠然としたものです。そして、このテーマについて、ブレインストーミングを行い、グループに分かれて各自が思いついたことを付箋に書いていきました。ブレインストーミングには、量をたくさん出す、便乗発展、批判厳禁、自由奔放という4つのルールがあります。次に、KJ法を使って、同じような意見ごとにこれを分類して、タイトルを付けます。

黒板にリンゴがクラステーマだった12HRのものが貼ってあります。分類したタイトルには、色、種類、名産地、消費者、白雪姫といったものが出ました。この中から、グループテーマを決定し、このグ

ループテーマの中から興味のあるものを各自で選択させました。今度は、そのグループテーマを選択した者同士が集まり、ウェビング法を使って、そのテーマから連想するものを出し合い、発想を関連付けたり広げたりしながら、たくさん出てきた言葉の中から個人テーマを選びます。この段階で、クラスのテーマ、グループのテーマ、個人のテーマの3つが決まります。

次に、インターネットを使い、クラステーマと個人テーマの2つの検索ワードを使って生徒に調べさせ、そこから興味深いと感じた情報を収集させました。この作業をするために、基本的なパソコンの使い方やワードの使い方、さらに情報モラルについて教えました。そうして集めた情報をA4版1枚にまとめさせました。その後、これを持ち寄って、グループの中で一人3分の発表をさせました。その際に、自分でまとめたものをいかにわかりやすく伝えるかという準備をさせました。その中で「世界一空気の汚い国」というテーマで発表した生徒に対して、他の生徒から「空気のきれい汚いを判断する規準は何か。」といった質問が出ました。その生徒はこの質問に答えられなかった訳ですが、自分の調べた情報がどの程度のものであるかを把握するには有意義な時間だったと思います。

本時は、グループシートを作成するという事で、個人作業だったものをグループ作業に戻します。グループシートという模造紙サイズの紙をメンバーで完成させていきます。ここではチームワークが必要ですから、そのためにどう取り組んだら良いかを生徒に体験させるために、ダイヤモンドランキングを利用したグループワークをさせました。その後、グループシートを作成させ、グループ発表をクラスで行います。

そして、グループ発表させた後に、今度は「発表する」というタイトルでウェビングを行い、発表するにはどんなやり方があるのかを考えさせます。例えば、実物を見せたり、実験をやってみせたり、歌を歌ったりなど、いろんなやり方が出てくるとは思いますが、生徒自身に発表の方法を検討させたいと考えています。そして、9月20日の探究発表会を迎えるという流れです。実際に生徒の活動の様子が写真にありますので、後ほど御覧下さい。

高校教育の場合、教員が情報を生徒に発信してそれを生徒が受け止め、課題を繰り返したり演習したりして知識を身に付けていく形が取られがちです。しかし、それだけで終わってしまったら、自ら働きかける力を育成することはできません。こうした反省を生かして始まった

のが「総合的な学習の時間」です。「総合的な学習の時間」では、教師からの投げかけはもちろんありますが、生徒からの発信もあって、さらに生徒同士の関わり合いもあります。また、インターネット、書籍、新聞、或いは、フィールドワークに行って外部の人からなど、様々なところから情報を収集します。最終的に、情報収集能力、コミュニケーションスキル、深く考える力等の社会人基礎力を身に付けて欲しいと考えています。

[委員長]

ただいまの説明につきまして、質問等がありましたらお願いします。

[A委員]

最終的に身に付けたい力として、様々な社会人基礎力があげられています。これはどのように抽出したのでしょうか。学校目標あたりからきているのでしょうか。

[市立高校教職員B]

昨年、講師を招いてキャリア教育の研修を行ったのですが、その時に提示されたものを参考にしています。

[委員長]

クラステーマを「肉」にした理由について教えてください。

[市立高校教職員C]

特に理由はありません。テーマは特に意図しない方が良いということではっとひらめいてこれに決めました。

[B委員]

今日、グループシートを作成しましたが、こうした授業は週1回やっているのですか。

[市立高校教職員B]

週2回です。

[B委員]

週2回ですか。非常にテンポ良くやっていましたね。

[市立高校教職員C]

担当が2人いますので、情報機器を使うときは、情報担当が行い、今日のような授業のときは、自分が行っています。

[C委員]

今日のクラスは、21名いましたが、1年生のクラスは全部で何クラスあるのですか。

[市立高校教職員C]

6クラスです。本日、見ていただいたビジネス探究科のクラスは、隣の4組とともに21名編成ですが、残りの4クラスは40名です。

[D委員]

今日の授業に使った9つの選択肢は、生徒が考えたものですか。

[市立高校教職員C]

前クラス共通で、教員の側が用意しました。

[D委員]

これは感想ですが、この中には結果と手段が混在しており、どこに視点があるのかなという感じがしました。もう少し、精査した方が良いと思います。

[E委員]

先ほど、校長先生から探究と進学は相反するという話がありました。探究の時間を1年次に年間25時間用意して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力といった社会に出るために必要な能力を高めることは大変重要だと思いますが、一般の授業との関係はどうなっているのでしょうか。一般の授業にプラスしてやっているのか、それとも一般の授業に替えてこの授業をやっているのでしょうか。

また、こうした能力が付いてきたときに、生徒がクラスの中だけでなく、全校生徒に対して発表するような場は用意されているのでしょうか。

[市立高校教職員A]

探究学習の授業自体は、週2時間ですが、一般の授業でも探究的な活動ができていくのではないかと思います。また、全体での発表を、1・2年次で9月と3月に予定しています。

[市立高校教職員B]

探究学習は、「総合的な学習の時間」と「情報処理」のやらなければいけない時間でやっており、他の一般科目を削ってやっている訳ではありません。

[F委員]

5つの単元のねらいが示され、目標が設定されており、現在は、ブレストやKJ法などスキルアップの段階です。今日見た限りでは、生徒は非常に楽しそうにやっていたようですが、生徒の感想も含めて、先生方の印象を教えてくださいたいと思います。

[市立高校教職員C]

クラス担任の立場から発言させていただきますと、初めての試みですので、最初はどうなるのか予想が付きませんでした。まずは、何でも言い合える雰囲気づくりに努めました。男子が6名しかいませんので、グループづくりで男女比率を考慮できませんが、どんなグループになっても、意見は出ますし、積極的に話ができるのでとても安心していきます。人数も少ないこともあって、とてもまとまっており、団結力のあるクラスです。

[F委員]

クラスの状況は、どのクラスも同じような感じですか。

[市立高校教職員B]

どのクラスも、生徒は積極的に取り組んでいます。生徒は、この時間を自分たちが考えて、自分たちが作って、自分たちが動かないといけない時間だと認識しています。ただ、この時間を楽しいと感じている生徒もいれば、負担に感じている生徒もいます。

この授業の後、個人のテーマとクラスのテーマの2つのキーワードの間に、敢えてグループのテーマを挟んで、再構築をさせる作業をします。そうすると、グループのテーマとの関連性を持たせてそれを作らなければなりませんので、とても難しい作業となり、生徒は大変頭を悩ませます。しかし、生徒が困って考えるということが大事だと思います。

います。発表するために形を整える時間より、生徒が真剣に考える時間を大切にしたいと思っています。

[F 委員]

情報収集など、授業時間外での活動などは、あるのですか。

[市立高校教職員 B]

全員が部活動を行うということになっているので、放課後の活動というのは難しいと思います。従って、極力時間内でやるようにしています。

[委員長]

ここまで、探究学習について、質問や意見をいただきましたが、ここからは、本日見ていただいた感想や御意見をいただければと思います。

[G 委員]

今の生徒は、自分の主張や意見を言うのは得意ですが、人の話を聞いて、それに自分の考え方を合わせていくことがうまくありません。こういう探究学習を通して、そうしたコミュニケーション等の力が付ければ、本当に楽しみであり、良いことだなと思います。

少しだけ気になったのは、グループ分けをする際、生徒が机と椅子をずるずる引き摺って動かしていたことです。きちんと、持ち上げて移動して欲しかったと思います。

[H 委員]

授業の感想を言わせていただきますが、まず、あれほど長い時間に、どの子も集中していたことが素晴らしかったと思います。ある先生によれば、学習意欲とは「意志」と「欲求」だそうです。「意志」を支えるものが、目当てであり、内容がわかっている、やり方がわかっている、手ごたえがあるということです。「欲求」は、なぜとか考えたいとか分かるようになりたいといったことです。そこで、ちょっと注意して欲しいなと思ったことがあります。それは、とても良い雰囲気、先生が投げかけると生徒は素直に考えていました。即ち、教師の指示に生徒が素直に従うというベースがあるものですから、教師はそこで安心してしまって、欲求といいますか、切実感、必要感の部分で薄く

なってしまうことがあるということです。一つの例として、中学校でこんなケースがあります。先生が「今からグループで話し合ってください。」というのと、生徒はサーっと集まって話し合う体制を作ります。けれども、その時に「何について話し合うの？」と問うと、「わからないけれど、先生が話し合えて言うから」といった答えが返ってくる場合があります。ですから、生徒に必要感や切実感を持たせるということを忘れないで欲しいと思います。

それから、学習には個人差があります。ある程度、授業が成熟してきたら、個人追究の場とグループ追究の場が同居していても良いのかなと思います。ある子は、まだ自分で考えたい、ある子はもうグループで話し合いたいといったことを同時に満たすような場です。

最後に、高校でも学習習慣を付けていきたいという話がありました。学習習慣というと、自分の時間の中でいつ学習するかという意味が一般的ですが、ある本によれば、学習での習慣という意味もあるそうです。即ち、自分が学習するときどのような習慣になっているかということです。今日、授業を見せていただいた中で、困ったところで周りの子に相談できている生徒たちの様子を見て、子どもたちに良い習慣がついているなど感じました。また、説明する側でも、単に説明するだけでなく、途中で子どもたちに「わかった？」と声をかけ、子どもたちからも「ここがわからない。」といった声が出るといったような習慣が付くように意識して欲しいと思います。

[I 委員]

今日、見せていただいたクラス中に、本校出身の生徒が3名いました。どの子もあんなに積極的に動いているのかと本当に驚きました。

話は変わりますが、私は、今日の授業のねらいが何なのかをずっと考えていました。しかし、正直なところ、最初良くわかりませんでした。途中、グループ学習で子どもたちが話を聞いて尋ねて、また聞いて尋ねてを繰り返す中で、周りに関わっていたり、1分間の中で自分の思いを必死で伝えようとしている姿を見たときに、高校でやろうとしていることは、小集団での人間づくりであったり、言語活動のかなと思いました。そういう中で、一人ひとりの子どもたちを見ると、発想力や考える力、自分をアピールする力など、どの力もこんなに付いたのかと感心しました。たった2ヶ月の間にこんなに自信を付けてもらった、ここに探究のねらいが生きていると思いました。

また、お互いに仲間を尊重している、仲間と共に伸びようとしているように私の目には見え、社会性も身に付けさせているのだと思いました。そして、グループリーダーを決める際に、先生が「リーダーはこうなんだよ。」と説明していましたが、ここでもリーダー性、社会のルールを教えているのだと思いました。

市立高校の探究学習は、まず、小集団の中で、すべてのものを培わしていき、それをだんだん広げていって、3年後には人生プランという長いスパンでやっており、2ヶ月の間にここまでいろんな力が上がっていました。結局、授業での子どもたちの様子を見ることで、少しずつそのねらいがわかってきました。正直、中学校ですと、何でもっと拡大してやらないのかな、何で前に出してやらせないのかな、そういう目先のことばかりが気になってしまいますが、そこには深い意味があるのだと気づきました。

[F委員]

ブレインストーミングやKJ法は、企業などで新入社員が入ってくるときにやっていますが、こうした、みんなで座を囲んで交じりながらやるようなことは、一般の授業ではなかなかありません。これによって、コミュニケーション能力を養うことは、新しい試みであり、周りから評価を受けるところだと思います。そして、後期にディベートを行い、さらにスキルアップして、3年生で「夢」に到達するというドリカムハイスクールのコンセプトに向かっていくわけですが、スキルを身に付けさせた後、どうやって展開していくかについて、たぶん、先生方も今悩んでいると思います。しかし、私は、これから学校が生徒の自己行動力をどうやって上げていくかをとても楽しみにしていますし、生徒たちが持っている潜在能力を是非生かして欲しいと思います。

また、先ほどG委員からもありましたが、学校にはゆるい部分もあって良いとは思いますが、ある程度はきちんとしたルールがあっても良いのかなと思いました。

[E委員]

今日のグループワークで、少ないところは3名しかいませんでしたが、コミュニケーション能力を養成する上で、この人数はちょっと少ないような気がします。グループの人数によって、活動の中身に差が出るのではないのでしょうか。

[B委員]

私は、余り人数にはこだわりません。人数が少なければそれだけ発言する機会も増えるからです。自分の意見が言えて、人の意見がしっかり聞けるのならば、3人でも良いのではないかと思います。ただ、クラスの人数が、今日のように全部で21名位であれば良いのですが、これが40名になった時に、発表する時間などがしっかりとれるか、そちらの方が心配です。

[委員長]

授業の中で生徒が生き活きとして活動している様子から、おそらく教育の成果はこれから上がってくると思います。しかし、一定の時期に、この教育の成果をどうやって測っていくのかが、少し気になっています。例えば、英語でしたらペーパー試験をして、点数によって成果がすぐに測れますが、こういう教育の場合、一人ひとりの能力の伸長をどうやって測るのでしょうか。

[市立高校教職員B]

情報の授業は、テストを行って評価点を付けますが、総合的な学習の時間の場合は、評価点を付けずに、文章による評価を行います。生徒には、「前期の活動を通して身に付けた力」という題で作文を課しますが、4月の段階の生徒の能力と半期が終ったときの生徒の能力との比較をどのように行うのかについては、私たちの間でも今のところ特に思いついていません。

[委員長]

ありがとうございました。そろそろ時間もまいりましたので、以上で討議を終了したいと思います。それでは、事務局に司会をお返しします。

5 次回の開催日程

事務局より、次回の日程について説明する。

6 閉会